特集1

観光客を呼び込め

平成27年2月、西九州自動車道の南波多谷口インターチェンジが開通し、伊万里市を取り巻く観光事情は変わりはじめました。それは、まさに『諸刃（もろは）の剣（つるぎ）』。どのようにして観光客を呼び込み、観光消費を流入させるか。伊万里市では、官民あげて交流人口の増加と外部消費の導入に取り組んでいます。これからの市の観光はどうあるべきか、その未来を皆さんと一緒に考えてみます。

●問合先　観光課観光戦略室（☎⑳９０３１）
〃　伊万里ブランド係（☎㉓２１１０）

なぜ、いま観光なのか

少子高齢化、雇用悪化、若者の流出、産業の減退、そして人口減少…。これらの問題が進行するとき、地域の消費力の低下が心配されます。逆に言うと、この消費力を回復させることができれば、悪循環を断ち切るきっかけになります。地域の消費力が頭打ちとなっているいま、新たな消費の起爆剤の一つとして市が取り組んでいるのが『観光』。それは、観光客の皆さんに伊万里の魅力を『知って』、『来て』、『感じて』、『消費』してもらうことです。

今後、西九州自動車道が市域を越えて延伸されると、伊万里は一通過点となるおそれがあります。まさに『いま』が将来を見据えた『分岐点』であり、観光に取り組む『好機』なのです。

人が集まって交流が生まれると、産業が活性化する―そこに新たな雇用が生まれ、地元の若者や市外からの転入者が定住してくれる―結果として、人口減少に歯止めがかかり、まちの全体が元気になっていくのです。

官と民で協働する
Attracting Tourists『誘客』

伊万里の魅力を発信する

日ごろ、私たちが何気なく暮らしている伊万里市には、伊万里焼や伊万里牛、伊万里梨などの特産品のほか、大川内山や市街地の歴史的町並みといった景観などが点在しています。その一つ一つが観光資源であり、観光客にとって『伊万里』の魅力でもあります。

しかし、黙っていても観光客は足を運んでくれません。伊万里の魅力を知ってもらい、国内外の数多くの観光地の中から選んでもらうためには、観光戦略が重要です。

↑ＪＲ博多シティ（福岡市）に展示した伊万里焼風鈴

そこで、市は、近隣で人口や誘客規模が大きい福岡都市圏をターゲットとして、積極的に情報を発信しています。これまで、福岡・伊万里間で**『観光ラッピングバス』**を運行するほか、関係団体と連携して福岡市内の商業施設やホテルを中心に**『伊万里フェア』**などを定期的に開催し、併せて**伊万里焼風鈴の展示**や、**伊万里牛をはじめとした市特産品の展示販売**なども実施しています。

←伊万里－福岡間で運行する高速バスの車体に観光ＰＲ広告を掲載したラッピングバス

↑ＡＮＡクラウンプラザホテル（福岡市）で開催された、伊万里産食材を使った料理を伊万里焼の器で提供する『伊万里フェア』のメディアパーティー

旅行会社などに企画を提案

多くの観光客を確保する方法として効果的なのが、旅行会社が企画するツアーなどの旅行商品。団体客が観光地に満足すれば、個人で再訪することも期待できます。市は、市が委嘱した『観光アドバイザー』と連携しながら、福岡都市圏をはじめとする旅行会社や報道機関を積極的に訪問しています。そこでは、**伊万里のイベント情報などを提供**するほか、**企画部門の視察の誘致**や、**旅行商品の造成**などを働きかけています。

↑企画旅行の造成のために大川内山を視察し、伊万里焼について説明を受ける旅行会社の社員たち

↑造成された企画旅行に参加し、大川内山の窯元を訪れる観光客

魅力ある企画は、「できるかもしれない」から始まる

市や関係団体と連携して、伊万里の魅力を盛り込んだプランを作って旅行会社などに提案しています。

いま、お客様が求めるのは『ストーリー性』と『オンリーワン的要素』です。例えば、梨狩りは夏ですが、真っ白な花を咲かせるのは春。伊万里の桜の名所と一緒にＰＲすれば、さらに魅力ある、ほかの地域にはないオンリーワン企画になるかもしれません。これからも、お客様が魅力的に感じるプランを発信し続ける必要があります。

伊万里市観光アドバイザー
徳永 勝行 *Katsuyuki Tokunaga*

㈱近畿日本ツーリスト九州から派遣され、市観光協会専務理事も務める。観光に関する専門知識と人脈を持つ。50歳。

↑伊万里津周辺（市街地）に往時の面影を残す白壁土蔵を案内する伊万里市観光ボランティアガイドの会

『伊万里んもん』のおもてなし

Hospitality of Imari

『真心』、それがおもてなし

ひとが見知らぬ地を旅するとき、誰もがせっかく訪れたのだから楽しんで帰りたいと思うはず。伊万里には、そんな旅人に魅力を伝え、もてなす人たちがいます。

市観光ボランティアガイドの会は、年間約6000人（平成26年度）の観光客を、大川内山や伊万里津周辺に点在する名所・旧跡などに案内しています。藤瀬熊喜（くまき）会長は、「私たちの役割は、お客様に伊万里の良さを知ってもらうお手伝いをすること。ちょっとした気配りがおもてなしにつながります。真心がすべてです」と笑顔で話してくれました。

食や風土を体感してもらう

伊万里を訪れる人たちをもてなすかたちはさまざま。商店街、大川内山などで、接客や案内に携わる人たちばかりではありません。

都会に住む人たちに、農林漁村での生活を体験してもらおうと発足した**伊万里グリーン・ツーリズム推進協議会**。その立ち上げから関わっている田中恒範（つねのり）さんも会員の1人。平成23年から民泊を始め、協議会全体でこれまで約2000人の修学旅行生や一般の観光客を受け入れてきました。

民泊では、宿泊するだけでなく、農・漁業や窯元での焼き物づくりを『体験』したり、地元の新鮮な食材を使って観光客と一緒に作った料理を『食』べたりしながら、田舎では当たり前にある自然の良さや人の温かさを伝えています。

↑えびす祭りのスタンプラリーで、『仲良しえびす』の由来などを分かりやすく説明する会員

↑宿舎となった田中さん宅のかまどで、自分たちで割ったまきを使って炊飯する修学旅行生

↑漁業体験で、地元の漁師が持つ生きたタコにおそるおそる触れる修学旅行生

自然の豊かさと人情でお客様をもてなします

修学旅行生は、自然の豊かさや田舎料理などを喜んでくれますし、食事中は方言や祭りの話で盛り上がります。私たち受け入れ農家も、交流を通して学ぶことがたくさんあります。

また、国内外の一般のお客様もお迎えしていますが、特に外国のお客様とは、国や言葉の壁を乗り越えて友好関係を築くことができるだけでなく、伊万里のPRにもつながることを期待しています。

皆さんも、私たちと一緒にグリーンツーリズムを始めてみませんか。

伊万里グリーンツーリズム推進協議会

田中 恒範 *Tsunenori Tanaka*

平成21年度のグリーンツーリズム推進協議会の発足時から運営に携わる。現在は、幹事長とむら泊部会長を兼任。66歳。

もっと伊万里を好きになってもらうために

to make them a fond of Imari

伊万里の魅力を融合させる

伊万里には、魅力的な観光資源がたくさんあります。それぞれを融合させて、付加価値を生み出すことが、新たな魅力づくりにつながります。

『観光プレミアム旅行券』や、松浦鉄道と連携した新たな旅行商品『伊萬里牛弁当付き観光列車』、『伊万里牛VS九州ブランド牛カーニバル』など、今後も伊万里の魅力を発信しながら、地域の活性化を図ります。

観光の振興は戦略と挑戦

伊万里には、市民の皆さんが誇りにされる焼き物や農・畜産品など、個々に光る観光素材があります。

今日、全国の観光地が、観光客の誘致合戦を繰り広げる中で、これらの素材を生かした観光商品を売り込むためには、観光客の目線や旅行が成り立つ仕組みを十分認識し、官民連携の中で戦略的に取り組むことが必要です。

伊万里は、まさに競争の世界に第一歩を踏み出しました。今後、観光素材を担う商・工・農業分野の関係団体を軸にアイデアや取り組みが出され、それを観光協会や行政が付加価値の高い商品として束ねて売り出せるか、これからが本当の正念場であると思います。

伊万里市観光アドバイザー
石田　仁 *Hitoshi Ishida*

㈱ＪＡＬパックで旅行企画などの九州統括マネージャーを務め、観光に関する豊富な知識と人脈を持つ。現在は、医療法人幸善会前田病院の事務部長。51 歳。

『オール伊万里』でもてなす

今も多様化しつづける観光ニーズ。「伊万里にまた来よう」と思ってもらうためには、関係者が相互に連携し、まさに『オール伊万里』で迎えることが必要です。

観光地を印象づけるのは『人』の魅力であり、感動を与えるのは『おもてなし』の心です。皆さんにも、何かできることはありませんか。

↑『伊萬里牛弁当』付き旅行商品を発表する道場六三郎さん（左から２人目）と、愛弟子の田中由示さん（山代町出身、左から１人目）

↑大川内山の秋の窯元市で、観光客をもてなす店員たち

観光で伊万里を元気にしたい

平成29年度の西九州自動車道・伊万里東インターチェンジ（仮称）の開通までの中期的展望の中で、市は今年度を『誘客推進の年』と位置づけています。この延伸をさらなる誘客の絶好の機会と捉え、福岡都市圏を中心に宣伝や営業活動に積極的に取り組んでいます。少しでも長く伊万里に滞在してもらえるような周遊コースの商品化を進め、交流人口の増加をめざします。

継続的な効果という点では、観光客に満足して帰っていただくことで、口コミやリピーターとなって観光客の増加にもつながるものと考えています。そのためには、観光素材の磨き上げやＰＲはもとより、受け入れ側である施設や店舗、市民の皆さんの『おもてなし』も大変重要な要素です。

観光課長として2年目を迎えましたが、市民や観光関連団体の皆さんから「観光客が増えてきたね」と実感し、満足していただけるよう、全力で頑張ります。

産業部観光課
課長　木寺　克郎